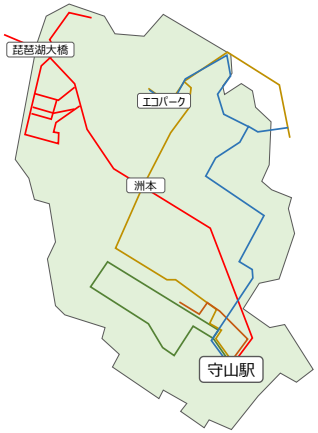
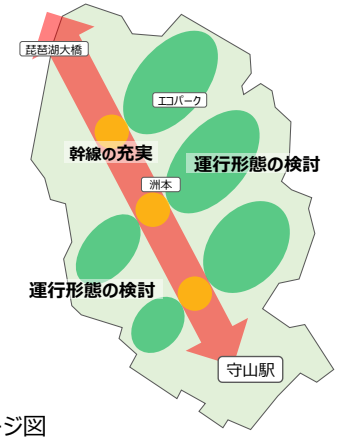
# 路線バスの将来（シナリオ）

資料1-2

| | ＜シナリオ１＞ | ＜シナリオ２＞ | ＜シナリオ３＞ |
|---|---|---|---|
| | **現行の路線や運行<br>本数等をなんとか維持** | **さらなる減便や<br>赤字路線の廃線** | **バス路線全体を見直し、<br>最適化を図る** |
| **路線バス** | **運行にかかる経費支援が今以上に必要**<br>・バス運転手確保策<br>・赤字補填増額 等 | **運行にかかる経費支援は今と同程度を継続** | **運行にかかる経費支援は内容次第**（今以上に必要と想定）<br>・バス運転手の不足を考慮した運行形態を検討<br>・利用状況に応じた運行形態の選択が可能 |
| |  | <br>※イメージ図 |  <br>※イメージ図 |
| **交通網全体** | ■バス路線は今と同様のため、利便性は変わらない。 | ■バス路線の減便（廃線）により、利便性が大幅に低下。<br>■減便等は、事業者から示されたのち、数か月で実施されるため、短期間での対応が必要。<br>■交通空白解消のため、様々な交通モード（手段）による補完が必要となるが、実施には時間を要する。 | ■バス路線の最適化を図ることにより、利便性向上を目指す。<br>■「交通網の形成・充実」に向け、あらかじめ入念な検討を行うことにより、それに基づいた計画的な対応が可能。<br>■上記を踏まえ、もーりーカーを含む様々な交通モード（手段）によりバスの補完を目指す。 |
| **もーりーカー** | ■役割面の見直し（利用要件の拡大等）<br>■運用面の見直し<br>（窓口一元化、DX導入、車両借上げ等）<br>**⇒利便性の向上を図る**<br><br>※路線バスが維持できなくなれば、役割面の大幅な見直しが必要。 | ■役割面の大幅な見直し（利用要件の撤廃等）<br>■運用面の見直し<br>（窓口一元化、DX導入、車両借上げ等）<br>**⇒経費の大幅な増加**<br><br>※タクシー事業者の負担、乗務員の確保、市の財政負担等を踏まえると、もーりーカーで完全に補完することは困難。 | ■もーりーカーの役割を明確化し、それに基づいた制度見直し<br><br>**⇒バスの最適化に対応したもーりーカーへ**<br><br>※持続可能な制度となるよう見直しを行う。<br>※もーりーカーを含む様々な交通モード（手段）により、バスの補完を行う場合においても、今以上に市の財政負担は必要。 |